

精神看護学実習



精神看護学実習

I. 目的

精神に障害をもつ対象との関わりを通して、人が心を病むことを理解し、健康回復に応じた看護ができる基礎能力を養う。

II. 目標

1. 精神に障害を持つ対象が理解できる。
2. 精神に障害を持つ対象の健康回復に応じた援助が考えられる。
3. 対象関係の大切さを知り、その人を尊重することができる。
4. 治療的環境の意味を知り、看護師の役割が理解できる。
5. 精神に障害を持つ人のリハビリテーション活動、社会資源に目を向け、今後の支援の方向性を考えることができる。

III. 実習施設と時間数

法人・施設・部署の理念・法的根拠・沿革・診療や活動内容・概要などを調べ、実習に臨む

科目名	単位 (時間数)	実習場所		時間	日数
精神看護学 実習	2 単位 (90 時間)	学内オリエンテーション		4.0	0.5 日間
		精神科病院に入院している対象の看護	青木病院、成増厚生病院、 薫風会山田病院	60.0	8 日間
		精神障害を持ちながら地域で生活をしている対象の看護	森田療法センター	11.5	1.5 日間
			精神科デイケア	7.5	1 日間
		就労継続支援施設	7.5	1 日間	

IV. 実習に臨むうえでの留意事項

1. 健康管理について

- 1) 実習施設に行く前に必ず検温をして健康状態の確認をして実習に臨む。
- 2) 実習に臨む上で健康上判断に迷う場合は、学校に連絡し感染制御室の判断を仰ぐ。
- 3) 体調不良の場合は速やかに受診して学校へ報告する。

2. 実習態度・マナーについて

- 1) 対応の5つの要素（挨拶・表情・態度・身だしなみ・言葉づかい）に留意する。
- 2) 学ぶ側（実習させていただく側）としての姿勢、謙虚な心、感謝する心、基本的人権の尊重、アドボカシーについて学び、グループで協力しあう。
- 3) 実習以外で患者・施設メンバーと個人的な関わりを持たない。住所、携帯電話番号、アドレスなど交換しない。また、それらを渡されたら断る。スタッフに報告する。
- 4) 実習中に得た情報に関して、公共の場（特に帰宅途中は注意）で絶対に話さない。ブログやイ

ンターネット等の SNS に書き込みをしない。

- 5) 患者・施設メンバーと学生の間で、秘密の約束をしない。秘密をもちかけられたら「学生なので秘密にできない」と言う。金銭はもちろん、物のやり取りはしない
- 6) 治療場面や活動場面（精神療法・作業療法・ミーティング・レクリエーション・散歩・買い物・作業など）では、学生はそれぞれが離れて参加する。私語はつつしむ。
- 7) 実習中、患者・施設メンバーの前ではメモはとらない

V. 実習記録について

1. 提出日

精神看護学実習すべての実習終了後の翌週月曜日の 9:00 までとする。担当教員の提出棚に提出する。

2. 「終了レポート」について

- 1) 書式・構成は基礎看護学実習Ⅱに準ずる。1600～2000 字とする。
- 2) 鉛筆書きは不可。

3. 実習記録物の取り扱いについて

- 1) 実習施設に向かう交通機関の中で、記録物を取り出したりしない。
- 2) メモ帳に情報を記録することはできるだけしない。メモ帳を所持する場合は、メモ用紙が簡単に外れないものとする。
- 3) 全ての記録物に、フリクションインキのペン（こすると消えるペン）は、使用しない。

4. 最終提出記録物について

- 1) 「実習評価表」自己評価を鉛筆書きで記入する。用紙の余白右上に受けもち患者の年齢・性別・病名を、鉛筆書きで記載する。
- 2) 「終了レポート」2部（1部は穴をあけずに提出する）
- 3) 「情報Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」「情報アセスメント」「計画」
- 4) 「プロセスレコード」
- 5) 作成したパンフレットなどがあれば、コピーしておき綴じる
- 6) 慈恵第三病院森田療法センター、精神科デイケア、就労継続支援施設の「一日の実習記録」
- 7) その他、主体的な学習内容が明確になる手書きのノート・ルーズリーフなどを綴じて提出する。授業資料やコピー類等は綴じない。

5. 実習記録提出時の留意事項

- 1) 記録に関しては、誤字脱字に留意し丁寧に書く。「終了レポート」以外は鉛筆書きでよい。
- 2) 最終提出記録物 3) ～ 7) にインデックスシールを付ける。6) は日付順にインデックスシールを付ける
- 3) 『看護技術経験状況』は提出しない

学内事前オリエンテーション

1. 目的

精神看護学実習の目的・目標・内容・方法を理解し、自己の課題を明確にして、実習に臨む準備ができる。

2. 目標

1. 実習目標・内容・方法が理解できる。
2. 実習前の準備を理解し行動できる。
3. 各実習施設の特徴と実習上の留意事項が理解できる。

3. オリエンテーション内容

- 1) 実習時間 4.0 時間
- 2) 実習場所 第2教室
- 3) 以下の内容を精神看護学担当者が説明する。
 - (1) 精神看護学実習の目的・目標・目標・内容
 - (2) 履修単位
 - (3) 実習配置表の見方と確認
 - (4) 事前学習について
 - (5) 実習に臨む上での体調管理
 - (6) 実習施設

精神科病院：青木病院・成増厚生病院・薫風会山田病院

森田療法センター：慈恵第三病院 1D 病棟

精神科デイケア：成増厚生病院デイケア

慈友クリニック

こころのクリニックなります

就労継続支援施設：クッキングハウス

三鷹ひまわり第一共同作業所・三鷹ひまわり第二共同作業所・

三鷹ひまわり第三共同作業所

4. その他

- 1) 全体オリエンテーションにあたり、以下のものを用意する。
 - (1) 『学生便覧』
 - (2) 『臨地実習ハンドブック』
 - (3) 『セーフティマネジメントマニュアル』
- 2) 履修上の条件を確認して参加する
- 3) 森田療法センター実習の詳細については、別に学内でオリエンテーションを行う

精神科病院実習

1. 目的

対象との関わり全般を通して対象を理解し、必要に応じた看護を展開できる。

2. 目標

1) 入院している精神に障害をもつ対象の治療的環境と看護師の役割が理解できる。

- (1) 入院病棟が治療的環境であるための条件がわかる。
- (2) 対象を取り巻く対人関係の治療的意義がわかる。
- (3) チーム医療における看護師の役割を知ることができる。

2) 入院している精神障害をもつ対象を理解し、必要に応じた援助が考えられる。

- (1) 病状や行動を観察し、病状や行動の意味を考えることができる。
- (2) 精神の状態が日常生活に与える影響を理解できる。
- (3) 対象とその家族との関係について考えられる。
- (4) 対象に応じた援助計画を立案し、実施することができる。

3) 対象関係の大切さを知り、その人を尊重することができる。

- (1) コミュニケーションを通して対人関係の大切さが理解できる。
- (2) 対象との相互関係を発展させ援助関係を築くことができる。
- (3) 患者－看護師関係における治療的関わりを考えることができる
- (4) 自己の態度・認知の傾向に気づくことができる。

3. 実習方法

1) 実習時間数：60 時間

2) 慢性期・急性期・社会復帰期にある対象の理解を中心に学ぶ。

3) 受け持ち患者は1名とし、実習期間を通して受け持つ。

4) 病棟スケジュールに沿って実習する。

5) 治療場面（精神療法・作業療法・レクリエーション療法など）に機会があれば参加、体験する。

6) 対象との関わりをプロセスレコードの記録にとり、対象関係を学び考察する。

4. 実習の進め方

1) 実習時間：8：30～17：00

2) オリエンテーション

(1) 全体オリエンテーション時に、精神科病院実習の詳細についてオリエンテーションを行う。

(2) 精神科病院の実習初日に、実習病院において実習生全員で、病院概要や実習時の注意事項等のオリエンテーションを受ける。その後、各病棟でオリエンテーションを受ける。

(3) 実習内容と展開

展開	内容
1週目	<ol style="list-style-type: none"> 1. 意図的・系統的に情報収集ができる（記録用紙の内容に準ずる） <ol style="list-style-type: none"> 1) 基本的な情報 2) 医学的な情報 3) 法的・社会的側面（入院形態、経済状況、住居の状況、社会保障制度の利用状況、家族構成、キーパーソン、現在の家族の経済状況、家族歴、家族の期待） 2. 情報のアセスメントできる <ol style="list-style-type: none"> 1) 家族背景 2) 生育歴 3) 性格 4) 知的レベル 5) 入院までの経緯（病歴） 6) 対象者の訴えと治療のとらえ方 7) 治療方針・看護方針 8) 入院後の経過概要（入院当時の状況からの変化） 9) 精神症状・情緒状態の把握（身だしなみ、動作、表情、印象、コミュニケーションの取り方、疎通性、気分の変化） 10) 治療薬 11) 日常生活行動に影響しているセルフケア 12) 対象者の健康的な側面 3. 情報・各問題の関連性の明確化と全体像を描くことができる 4. 介入できる短期目標の立案できる 5. 対象者を尊重したコミュニケーション（プロセスレコードを用いて） <ol style="list-style-type: none"> 1) 関心を持って関わることができる 2) 尊重して関わるすることができる 3) 対象の言動をありのままに観察し、行動の意味を考えられる
2週目	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護計画に基づく看護の実践 <ol style="list-style-type: none"> 1) 短期目標を基に看護を実施できる 2. 看護の実践とその関わり方への反応について考えられる <ol style="list-style-type: none"> 1) プロセスレコードを用いて、関わりの振り返りを実施できる <ol style="list-style-type: none"> ①時間、場所の共有、そばにいることの意味が考えられる ②自己のコミュニケーションの傾向を知ることができる 3. 評価 <ol style="list-style-type: none"> 1) 計画を基に実施した内容をその関わりについて評価できる <ol style="list-style-type: none"> ①対象の健康的な側面や日常生活行動（セルフケア）への影響 ②精神症状・情緒状態への影響 2) 自己の傾向（コミュニケーションの取り方）を知り、自己の課題について考えられる。

3) 毎日の行動調整

(1) 患者の状況をアセスメントし、「一日の実習記録」にその日の“行動目標および行動計画”を立案して臨む。

(2) 行動調整

- ① スタッフ全体あるいは実習指導者に、学生各々がその日の“行動目標および行動計画”を発表する。
 - ② 発表の内容は、当日の関わりの要点や主な援助内容をまとめて簡潔に述べる。
 - ③ 各病棟の状況で、実習指導者・スタッフより助言をいただく。
- (3) 前日の“実施および評価”は、グループでまとめて担当教員に提出する。

4) 援助の実際

- (1) 援助は、原則として看護師・実習指導者・教員とともに実施する。
- (2) 外出の際は、事前に必ず実習指導者・教員に報告・確認をし、指示を受ける。許可なく患者と二人きりで出かけてはならない。
- (3) 治療場面や活動場面（精神療法・作業療法・ミーティング・レクリエーション・散歩・買い物など）への参加の際は、受け持ち患者が参加しなくても実習指導者の確認が得られれば参加をしてもよい。ただし、参加・学習目的を明確にし、“行動目標および行動計画”に記載する。

5) 記録・報告

- (1) 看護記録・温度表は、記載しない。
- (2) 情報収集の内容や実施した援助については、実習指導者・看護師に報告をする。

6) カンファレンスについて

(1) 目的

- ① 学生個人の経験や感情を共有する。
 - ・ 学生それぞれが今感じている戸惑いや焦り、苛立ちなどの感情を率直に語り合う場とする。
 - ・ 学生個人が自分だけが悩んだりしているのではないことに気づく機会となる。
 - ・ 様々な見方ができることや答はひとつではないことを学び、気持ちの整理ができる場となる。
- ② 個々の援助計画やその実施について検討する
 - ・ 収集した情報は妥当だったか、援助のために必要な情報は何か討議し、共通の理解を深める。
 - ・ 具体的な日常生活の援助が適切かどうか検討する。

(2) 時間と運営

- ① 原則として 15:00～16:00、毎日実施する。(病棟・実習指導者の都合に合わせて、調整を行う)
- ② 司会、書記は学生の持ち回りで実施する。
- ③ 毎朝、実習指導者に連絡し、原則として毎日参加して頂けるように依頼をする。
- ④ 最終カンファレンスには、実習指導者以外に師長、主任およびスタッフの方々にも参加していただけるように積極的にお願いをする。
- ⑤ 資料がある場合、当日の朝には実習指導者・教員に渡しておく。
- ⑥ 資料作成にあたっては、実習の記録をできる限り活用する。

(3) カンファレンス内容

	内容	留意点
1 日目	初日の感想・反省	①学生個々が初日に感じたことを自由に話し合う。 ②実習指導者に患者・病棟のことでわからないことがあれば、解決する。
2 日目	受持ち患者と接しての感想意見交換	①学生 1 人あたり 5～10 分程度の時間配分で発表する。 ②受持ち患者と接して、自分自身にある気持ちに正直に話をする。 ③相手に気持ちを伝えること、通じることの大切さを中心に行う。
3 日目	ケース カンファレンス	①プロセスレコードの中から最も気になる場面を選択し、その場面の説明をし、思いや考えを伝える。それを基に意見交換をする。精神科病院実習 実習目標 1) 3) を参照する ②学生各々が具体的にどのように援助から、どのような実習結果が得られ、今後の援助計画をどのように考えて行くかを提示する。また、本日までの関わり、援助について振り返り、方向性が考えられる。精神科病院実習 実習目標 2) を参照する ③プロセスレコード：実習 1 週目に 1 場面、実習 2 週目に 2 場面以上記録する。 ④プロセスレコード・看護過程記録用紙を活用して資料作成する。
4 日目		
5 日目		
6 日目		
7 日目		
8 日目	総合 カンファレンス	①実習目的・目標をふまえて、学生個々が実習で体験したことからの気づきや学びを発表し意見交換をし、実習指導者より助言を頂く。

5. 事前学習

- 1) 精神障害の症状と看護：統合失調症、双極性障害、強迫性障害、境界性人格障害、摂食障害、アルコール依存症、薬物依存症
- 2) 治療：薬物療法、精神療法、修正型電気けいれん療法、森田療法、認知行動療法
- 3) 精神保健福祉法：基本的な考え方と入院形態について
- 4) 精神科におけるコミュニケーション技法

6. 実習に臨むうえでの留意事項

- 1) 実習初日は 8：30 に病院正面玄関に全員集合し、更衣室へ向かう。
- 2) 実習中の宿泊場所を親戚やホテルなどに変更する場合は、事前に学校に申告する。
- 3) 実習の服装は、所定の外部実習ユニホーム、氏名章、ナースシューズとする。通学の服装は、患者と外出することがあるため、華美でない学生らしい服装または外部実習ユニホームとする。実習初日に、実習期間中の病棟プログラムや行事を確認し、トレーニングウェア、スニーカー、その他必要なものがあるかどうかを確認する。必要時、持参する。
- 4) 朝検温をし、自覚症状の有無を確認し、「臨地実習健康状態確認表」に記入し持参する。担当教員に確認する。
- 5) 昼食および飲み物は、必ず持参する。ごみは全て自宅に持ち帰る。

- 6) 更衣室は日々掃除をする。更衣室ドアにある使用予定表を確認し、机や椅子をセッティングする。更衣室は他校の学生と共有することがある。机や椅子、ロッカーの使用など、お互いに配慮する。
- 7) 患者の前ではメモを取らない
- 8) 患者と話をする時はなるべくホールで話をする。患者の部屋で話をする時は、所在を実習指導者、教員に報告してから実施する。
- 9) 実習中の疑問、不安、悩みなどは、実習指導者や担当教員に相談する。できる限りその日のうちに解決し、後にもち越さない。
- 10) 担当教員の実習期間中の予定を確認して行動する。
- 11) 院内では挨拶をして、言葉づかいに十分注意する。
- 12) 実習最終日、記録用紙が全てそろっているかグループメンバー全員で確認する。ロッカーに忘れ物がないか全員で確認する。更衣室をもとの状態に戻し、担当教員の許可を得て帰宅とする。

7. 鍵の管理について

- 1) 鍵は、基本的に教員が管理する。管理方法は実習病院ごとに異なる。オリエンテーション時必ず確認する。
- 2) 学生が開閉して良い扉について病棟ごと確認しておく。
- 3) 鍵を閉めた後は、ドアノブを回す、引き戸を引くなどして施錠を再確認する。習慣化する。
- 4) 鍵を持ち歩く際は、他者の目に触れないように、音がしないように持ち歩く。機会があるごとにユニホームの上から鍵の存在を確認する。
- 5) 学生が使用するときのみ使用し、患者、家族、出入り業者、病院職員らしき人に依頼されても独断で開けない。「鍵を見せてほしい」と言われても、見せない。
- 6) 教員が不在な日に限り、学生が管理する場合がある。その時は、リーダーが鍵を持つ。扉の開閉は2名以上の学生で確認する。

8. 誓約書について

- 1) 受けもち患者への「実習協力のお願い及び誓約書」を実習前に署名し実習に臨む。
- 2) 実習病院の指定の書類に、署名・捺印する必要がある場合がある。その都度必要時に掲示板等で告知する。速やかに提出する。
- 3) 念のため、実習には印鑑を持参する。

森田療法センター実習

1. 目的

森田療法センターの役割を知り、地域で生活していくための支援のあり方を考えることができる。

2. 目標

- 1) 森田療法センターに入院してくる患者の特徴を知ることができる。
- 2) 入院している患者の1日の過ごし方を知ることができる。
- 3) 森田療法センターの治療を知り、森田療法の看護のあり方を考えられる。
- 4) 退院後患者および家族の対してどのような社会的サポートがあるとよいか考えられる。

3. 実習方法

- 1) 実習時間数：10.5 時間
- 2) 患者とともに、森田療法の一部を体験し、同じ時間を共有する。
- 3) 職員の利用者への働きかけの実際を見聞きする
- 4) 患者同士の相互交流を見聞きする
- 5) カンファレンスで、自己の学び・疑問について話し合う

4. 実習のすすめ方

- 1) 実習時間：8：00～16：30
- 2) 事前オリエンテーション
(1) 時間数と内容

時間	内容	講師
4.0 時間	慈恵第三病院における森田療法センターの役割 ①入院森田療法の対象患者 ②治療の特徴（第1期絶対臥褥期、第2期軽作業期、第3期作業期、第4期社会復帰期） ③森田療法の看護師の役割 ④看護の特徴（第1期、第2期、第3期前半、第3期後半、社会復帰期） ⑤1日のスケジュール等 ⑥実習上の留意点	森田療法センター (1D病棟) 看護師長

- (2) 場所：学内（第二教室）はじめと終わりには、号令をかけてあいさつする。
- (3) 服装：所定の外部実習ユニホーム、念のためセンター内の上履きを準備する
- (4) 持ち物：事前学習、筆記用具

3) 実習内容と実習に臨むうえでの留意点

- (1) 実習時間数：7.5 時間

(2) 活動の内容と留意点

日時	活動の内容
7:55 病棟着	事前に学内で検温チェックを受けた後、1D病棟へ行く
8:00~9:00	申し送り、ケースカンファレンスに参加
9:00~12:00	朝のミーティングに参加する。学生は全体にあいさつする 各作業担当者から指導を受け、作業へ参加する 担当看護師の関わりを見る
13:00~15:00	森田療法のDVD鑑賞 午前中の関わりで、森田療法看護について振り返り、討議した内容を発表する
15:00~15:30	質疑応答、記録をまとめる
15:30~16:00	(作業・運動) 治療の一環として卓球に参加する
16:00~16:30	学校に戻り記録をまとめる

4) 実習記録について

- (1) オリエンテーションの内容や事前学習、実習目標を総合し、「一日の実習記録」に“行動目標および行動計画”を立案して実習に臨む。
- (2) 実習後に「一日の実習記録」の“実施および評価”を記載する。
- (3) 記録提出については、『臨地実習ハンドブック』の“最終提出記録物”を参照する
- (4) 事例検討の用紙は、家に持ち帰らずシュレッダーにかけてから帰宅する。

5. 事前学習

- 1) 森田療法の治療法と看護
- 2) 精神科におけるコミュニケーション技法

6. 実習に臨むうえでの留意点

- 1) 服装は所定の外部ユニホーム、外履きはスニーカーとする。森田センター内は上履きを準備する。
- 2) 質疑は積極的に行う。
- 3) 本日の学びを発表するときは、謝辞を述べてから発表する。

精神科デイケア実習

1. 目的

地域の中でのデイケアの役割を知り、精神障害を持ちながら地域で生活する対象への支援のあり方について考える。

2. 目標

- 1) デイケアメンバーの特性と生活がわかる。
- 2) デイケアで実施されるプログラムの目的・内容がわかる。
- 3) 多職種チーム（医師・看護師・作業療法士・精神保健福祉士・臨床心理士）の構成を知り、看護師の役割を考える。
- 4) 地域の中でのデイケアの役割がわかる。

3. 実習方法

- 1) 実習時間数：7.5 時間
- 2) 施設メンバーとともに、作業・仕事の一部を体験し、同じ時間を共有し、その思いや考えを知る。
- 3) 他職種の職員構成を知り、それぞれの施設メンバーへの働きかけの実際を見聞きする
- 4) 施設メンバー同士の相互交流を見聞きする
- 6) カンファレンスで、自己の学び・疑問について話し合う

4. 実習のすすめ方

- 1) 実習時間：実習施設ごとにことなる。
- 2) オリエンテーション
 - (1) 全体オリエンテーション時に、精神科デイケア実習の詳細についてオリエンテーションを行う
 - (2) 実習初日に。実習施設において施設概要や実習時の注意事項等のオリエンテーションを受ける。
- 3) 実習施設

	青木病院 デイケア 042-483-1355 (代)	成増厚生病院 デイケア 03-3090-1191 (代)	慈友クリニック デイケア 03-3360-0031	こころのクリニック なります デイケア 03-3939-6161
実習時間	9:00~16:30	9:10~16:00	8:50~16:30	8:30~17:00
服装	外部実習服	外部実習服	外部実習服	外部実習服
持ち物	一日の実習記録 (目標記入) メモ、筆記用具	一日の実習記録 (目標記入) メモ、筆記用具	一日の実習記録 (目標記入) メモ、筆記用具	一日の実習記録 (目標記入) メモ、筆記用具、上履き
昼食	当日 400 円程度 メンバーと一緒に	持参 メンバーと一緒に	持参 メンバーと一緒に	当日弁当を注文 お弁当代 1000 円程度 メンバーと一緒に
場所 最寄り駅	東京都調布市 西調布駅徒歩 12 分	東京都板橋区 成増駅バス西高島平	東京都新宿区高田 馬場徒歩 1 分	東京都板橋区 成増駅徒歩 3 分

4) 実習内容

日時	実習内容	備考
8:30～ 9:00	実習事前準備・学習（ロッカー学習室） 外部実習用のユニホームに着替える。	実習目標を発表できるよう準備をする。
9:10～ 15:30	プログラムに参加する前に挨拶をする。 実習日に企画されているプログラムに参加する。 実習指導者の指示に従って、見学・施設メンバーとともに作業に参加する。 ・ 参加プログラムが決定した場合は、施設メンバーの方々に自己紹介と挨拶をして、参加する。 ・ 特定の施設メンバーの受け持ちはしない。 ・ 参加の作業が終了し、次の作業の参加が無理な場合は、実習指導者の指示に従う。	プログラムの進行状況を考慮するが、グループでまとまって昼休みをとる。 (12:00～12:55) 昼食はデイケアで注文していただいたものをメンバーと一緒に食事する。
15:30～ 16:30	カンファレンス 一日実習での体験からの気づきや学びなどを通しての意見交換を行う。	プログラム終了後、指導者の指示のもと、カンファレンスを実施する。
16:30～ 17:00	実習事後学習・ロッカールームの掃除	17:00には、ロッカー室を退場する。

5) 記録について

- (1) オリエンテーションの内容や事前学習、実習目標を総合し、「一日の実習記録」に“行動目標および行動計画”を立案して実習に臨む。
- (2) 実習後に「一日の実習記録」の“実施および評価”を記載する。
- (3) 記録提出については、『臨地実習ハンドブック』の“最終提出記録物”を参照する

5. 事前学習

- 1) 精神科リハビリテーションについて
- 2) デイケアの役割について

6. 実習に臨むうえでの留意事項

- 1) 実習中の施設メンバーとの関わり方
 - (1) 初対面の人、目上の人と接する場合、敬意をもって接する。
 - (2) プログラム中に困ったことのある場合は、スタッフに聞き必ず確認する。
- 2) プログラム参加時
 - (1) 実習日に欠席する場合はデイケアの実習担当者へ直接連絡する。また学校（2学年責任者）と実習グループメンバーに連絡する。
 - (2) 朝体温チェックを行い、「臨地実習健康状態確認表」を実習担当者に確認してもらう。
 - (3) 実習最初に利用者にあいさつ自己紹介を行い、実習終了時は施設メンバーの前で実習をしての感想とお礼のあいさつをして終了する。

- (4) 施設メンバーとともにプログラムに参加し、積極的に関わる。
- (5) 休憩時は実習担当者へ食事に行くことを伝え、休憩後は戻ってきたことを伝えてからプログラムに参加する。
- (6) 本日の学びを発表するときは、謝辞を述べてから発表する。
- (7) 他施設を利用するプログラムの場合は積極的に参加する。有料の場合もあるので 1000 円程度持参しておく。
- (8) 食事代などの支払い時、学生分はまとめてお釣りのないように、封筒などに入れて支払う。小銭だけで支払うことのないようにする。

7. 誓約書について

- 1) 実習病院の指定の書類に、署名・捺印する必要がある場合がある。その都度必要時に掲示板等で告知する。速やかに提出する。
- 2) 念のため、実習には印鑑を持参する。

就労継続支援施設実習

1. 目的

地域の中での就労継続支援施設の役割を知り、地域で生活する対象への支援のあり方について考える。

2. 目標

- 1) 就労継続支援を行っている施設で精神に障害を持つ人がどのように働いているのか知る。
- 2) 地域における就労継続支援の役割について考えることができる。

3. 実習方法

- 1) 実習時間数：7.5 時間
- 2) 施設メンバーとともに、作業・仕事の一部を体験し、同じ時間を共有し、その思いや考えを知る。
- 3) 他職種の職員構成を知り、それぞれの施設メンバーへの働きかけの実際を見聞きする
- 4) 施設メンバー同士の相互交流を見聞きする
- 6) カンファレンスで、自己の学び・疑問について話し合う

4. 実習のすすめ方

- 1) 実習時間：実習施設ごとに異なる
- 2) オリエンテーション
 - (1) 全体オリエンテーション時に、就労支援施設実習の詳細についてオリエンテーションを行う。
 - (2) 実習初日に、実習施設において施設概要や実習時の注意事項等のオリエンテーションを受ける。
- 3) 実習施設

	クッキングハウス 042-498-5177	三鷹ひまわり第一・二・三作業所 0422-48-5240 (第二)
実習時間	9：00～16：00	8：45～17：00
服装	私服（華美でない服）、スニーカー 調理をするので長い髪は結びまとめる	外部実習服
持ち物	一日の実習記録（目標記入） メモ帳・筆記用具・エプロン・バンダナ	一日の実習記録（目標記入） メモ帳・筆記用具、上履き
昼食	レストランの食事 昼食代 500 円程度を準備する	当日弁当を注文、メンバーと一緒に 昼食代 400 円程度を準備する
場所 最寄り駅	東京都調布市 調布駅徒歩 10 分	東京都三鷹市 三鷹駅徒歩 15 分

4) 実習内容

- (1) 実習施設の業務計画に沿い、実際に施設メンバーと共に作業等を行う。
- (2) 実習中は施設職員・実習担当者の指示に従う。
- (3) 施設メンバーのミーティングに参加する。

5) 記録について

- (1) オリエンテーションの内容や事前学習、実習目標を総合し、「一日の実習記録」に“行動目標および行動計画”を立案して実習に臨む。
- (2) 実習後に「一日の実習記録」の“実施および評価”を記載する。
- (3) 記録提出については、『臨地実習ハンドブック』の“最終提出記録物”を参照する

5. 事前学習

- 1) 障害者総合支援法に基づく福祉サービス（自立支援給付、地域生活支援事業）
- 2) 就労支援（主な就労関係機関、就労支援施策）
- 3) 福祉制度（自立支援医療、精神障害者保健福祉手帳、障害者年金、生活保護）
- 4) 地域精神保健福祉に関わる行政機関について

6. 実習に臨むうえでの留意事項

- 1) 実習中の施設メンバーとの関わり方
 - (1) 初対面の人、目上の人と接する場合、敬意をもって接する。
 - (2) 作業中に困ったことのある場合は、施設職員・実習担当者に必ず聞き、確認する。
- 2) 作業参加時
 - (1) 実習日に欠席する場合は施設の実習担当者へ直接連絡する。また学校（2学年責任者）と実習グループメンバーに連絡する。
 - (2) 毎朝体温チェックを行い、「臨地実習健康状態確認表」を実習担当者に確認してもらう。
 - (3) 実習最初に利用者にあいさつ自己紹介を行い、実習終了時は参加メンバーの前で実習をしての感想とお礼のあいさつをして終了する。
 - (4) 施設メンバーとともに作業に参加し、積極的に関わる。
 - (5) 休憩時は実習担当者へ休憩に行くことを伝え、休憩後は戻ってきたことを伝えてから作業に参加する。
 - (6) 本日の学びを発表するときは、謝辞を述べてから発表する。
 - (7) 公園などでの外部作業時は、施設メンバーだけでなく住民の方々への配慮を忘れない。また、交通事故なども注意する。
 - (8) 食事代などの支払い時、学生分はまとめてお釣りのないように、封筒などに入れて支払う。小銭だけで支払うことのないようにする。

精神看護学実習評価表

学生番号	学生氏名		
実習期間	年 月 日 ~ 年 月 日	実習病院	
出席状況	欠席時間数	時間	実習病棟
評 価	点	学生署名	教員署名

* 太枠内はボールペンで、A B C D及び自己評価は鉛筆で記入の上、提出する

評価項目		A	B	C	D	自己評価	教員評価
精神科病院の対象理解	1. 精神症状が日常生活行動に及ぼす影響をアセスメントできる						
	2. 対象の健康な側面を考えられる						
	3. 対象の発達過程（心理社会的発達）を考えられる						
	4. 対象の病気および治療・看護の過程がわかる						
	5. 対象に応じた援助計画を立案できる						
	6. 援助計画を実践し、対象の反応から評価できる					/30	/30
森田	1. 対象の特性がわかり、治療を知ること看護の役割が考えられる					/5	/5
地域対象での生活理解	1. 施設利用者の特性がわかる						
	2. 施設の目的・内容を知り、利用者の支援のあり方がわかる						
	3. 各施設の地域の中での役割がわかる					/15	/15
実施・シミュレーション	1. 対象に関心を持って関わることができる						
	2. 対象を尊重して関わることができる						
	3. 自己の態度や認知の傾向に気づき、考察できる						
	4. 対象への治療的な態度と関わりについて考えられる						
	5. 他職種の役割を知り、連携のあり方がわかる						
	6. 治療的環境や人権擁護について考えられる					/30	/30
態度	1. 積極的に実習に臨み、疑問や意見を述べるができる						
	2. 服装・言葉遣い・態度をわきまえている						
	3. 連絡・報告・相談ができる					/15	/15
レポート：テーマ						/5	/5
教員評価							

慈惠第三看護専門学校

学生番号 _____ 氏名 _____